

対象者氏名・年齢

Zさん 男性 84歳 中国人
去年5月、日本へ引っ越してきた

住所

JR浅香駅より徒歩10くらい

住居形式

一戸建て

家族構成

夫人 73歳 娘 52歳

健康状態

Zさん 身長 170cm

視力 老眼

聴力 補聴器等の使用なし

糖尿病 月1回 病院へ行く

足の関節の痛みがあるので、階段をのぼることがつらい

「老い」に対する心理的な抵抗から、杖が使いたくない

外出頻度

日2回 散歩する

趣味

Zさん ーテレビをよく見ている 日本語を勉強している

夫人 ーあみもの

他の事項

お二人とも元気で、自立して生活していらっしゃるが、娘さんは炊事、お掃除など家事を担当している。

また、二人は日本語と中国語通訳をしていたので、日本語で日常会話が話せる。

毎日の生活

起床して、ベッドの上で、マッサージ器で、足をマッサージする。朝食をとり、家の近い公園を散歩し、簡単な体操をする。家へ戻り、お茶を飲んで、ゆっくり昼までの時間を過ごす。奥さんが作った昼ごはんを食べてから、テレビを見て、散歩する。その後、帰宅して夕食を食べ、テレビを見たり、読書をしたりして過ごし、就寝する。

一日の生活

7:00	起床	18:00	散歩
7:30	朝食	19:00	晩御飯
8:00	散歩	22:00	シャワー
10:00	お茶	23:00	就寝
12:00	昼ごはん		
13:00	テレビ、新聞		

困っていることについてメモ

家の中 フローリングの床がすべる

リビング 椅子から立ち上がる際につらい

玄関 1. 靴を履くとき、スムーズにはけない

2. 手すりがないので、段差が大きくて、のぼりにくい

洗面場	立っているのがしんどい
お風呂	今まで、腰掛けでは座ると膝が痛くなりつらい 浴槽が深いので、入るのも足を高く上げなければならない →シャワーだけ
2階に上ること…	2階に上がるのが大変 手すりは片側だけをつけているので、つらい
トイレ	便座が低いため、座っていて、立ち上がるのが大変

思い・ニーズを支えるサービス

娘さんがZさんの生活の面倒を見て、大変だと感じた。「大阪外国籍住民施策基本指針」により、外国人登録をしている方、入国時に決定された。在留期間が1年以上の方は、介護サービスを利用することができる。娘さんの負担を軽減するために、在宅サービスは週に3、4回くらいサービスをうけたほうがよいと思う。

また、家庭内における不慮事故の対策を考慮しなければならないので、万一事故があったとき、素早い対応をとるためには、事故発生を知らせることが重要である。緊急通報、見守りサービスを活用して、情報把握のスケールは住宅内から、屋外まで幅を広くする必要があるのである。

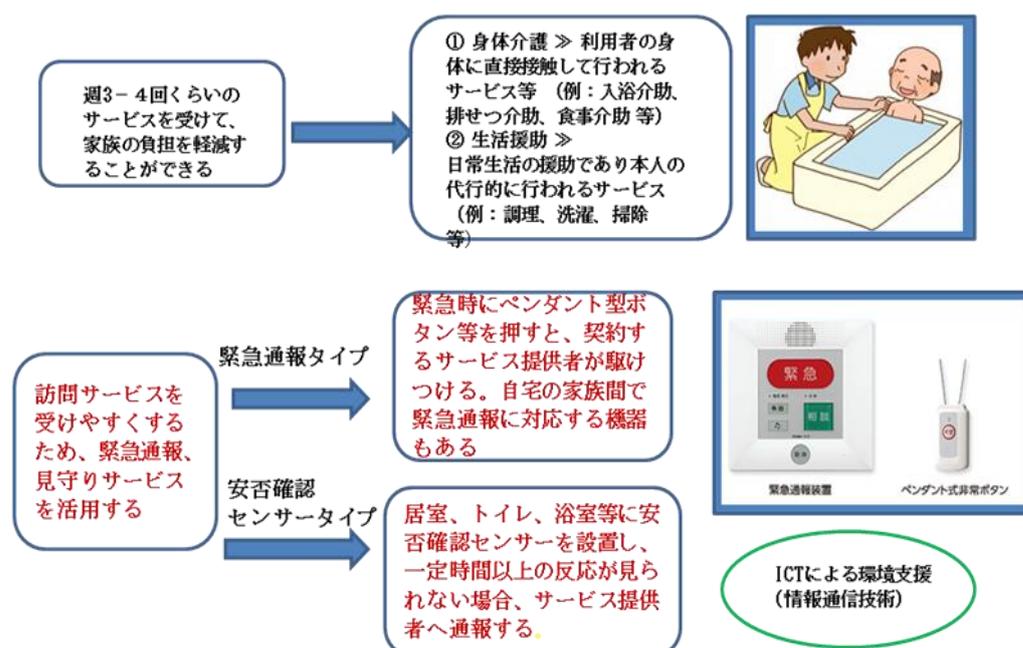


図 1. 支えるサービスのイメージ

住環境や施設

Zさんは去年5月に日本へ引っ越したばかりで、毎日生活パターンを決めて、生活している様子である。

家の出入り口、手すりをつけてないので、危ないと感じる (写真1. 入り口)。そして、2階廊下は1階より狭いゆえに、車椅子が通らないと感じる (写真2. 2階の廊下)。1階空間イメージは図.2のように示した。



写真1. 入り口



写真2. 2階の廊下

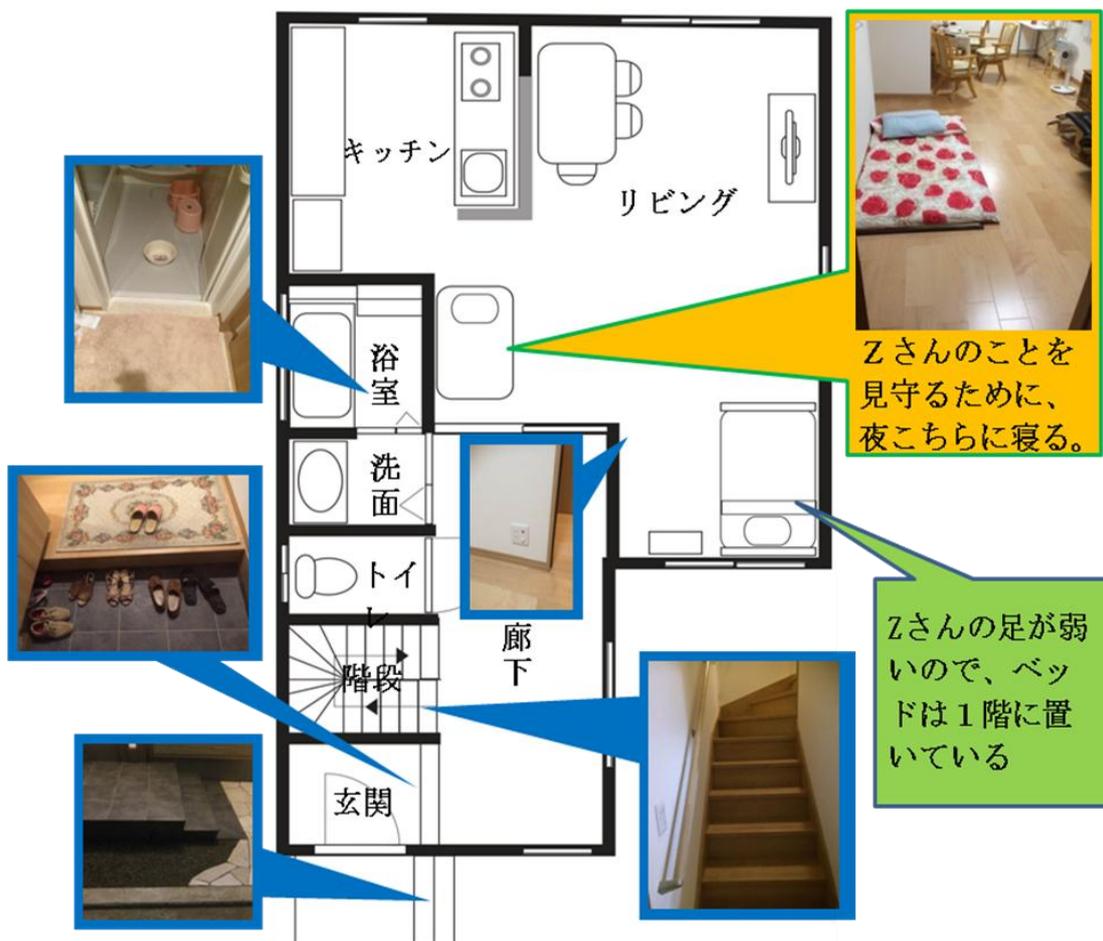


図2. 1階空間イメージ

入り口と玄関では、大きな段差があり、浴室も同様で、そのような段差がお年寄りにとって危険であり、室内コンセントの位置が低く、抜き差ししにくいと感じた。

リビングでは、Zさんの足が弱いので、ベッドをコーナーに置いて、娘さんと奥さんがZさんのことを見守るため、布団をつけて、こちらに就寝する。

前述したように、要介護に至っていない高齢者は必ずしも安心できて、楽な生活を望んでいるとは限らないため、家の住環境を改善する必要があると思う。

困ったことについて、住空間を別に考えて、改善対策と改善イメージは表1と図3のように示した。

便所	<ul style="list-style-type: none"> ● 手すりをつける ● 便器での立ち座りが難しい場合、立ち上がりを補助する壁を取り払って便所を広くする。(将来大きな工事)
浴室	<ul style="list-style-type: none"> ● 浴室でのユニバーサルデザインの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出入口の段差をなくす ・ 浴槽を入りやすい高さにする ・ 浴室の壁を手すり等が設置できる仕様にしておく ● 立ち上がり能力が低下なので、入浴用椅子—シャワーチェアを置く
洗面	<ul style="list-style-type: none"> ● 暖房をつける 冬・脱衣行為に対応する ● 車椅子用洗面台をつける(将来大きな工事)
キッチン	<ul style="list-style-type: none"> ● 火事の危険性を重視するために、電気調理器をつける。(消し忘れ防止装置が付いている製品) ● 床はすべり止めシートをつける
玄関	<p>玄関から道路まで</p> <ul style="list-style-type: none"> * 段差解消機、スロープ、外階段への手すり、階段昇降機等をつける <p>出入口(玄関)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 靴を脱ぐ際の腰掛けベンチ、踏み台、簡易スロープ、手すり等をつける
廊下	<p>床はすべり止めシートをつける</p> <p>フットライトを使用する</p> <p>手すりをつける</p>
階段	<p>両側に手すりをつける</p>
リビング	<ul style="list-style-type: none"> ● 食卓のテーブルの高さや機能が充実しているものを選ぶ。リフトアップ立ち上がり補助椅子を使う ● 動線の途中、ソファ等、随所に休息できる施設を確保する
高齢者室	<ul style="list-style-type: none"> ● 居室を広くする ● コンセントの差し込み口数や抜き差ししやすい位置に配慮する ● 本人の状態に応じて、移動できるようにしておくベッドの両側からアクセスできるようにすることも考えられる

表1

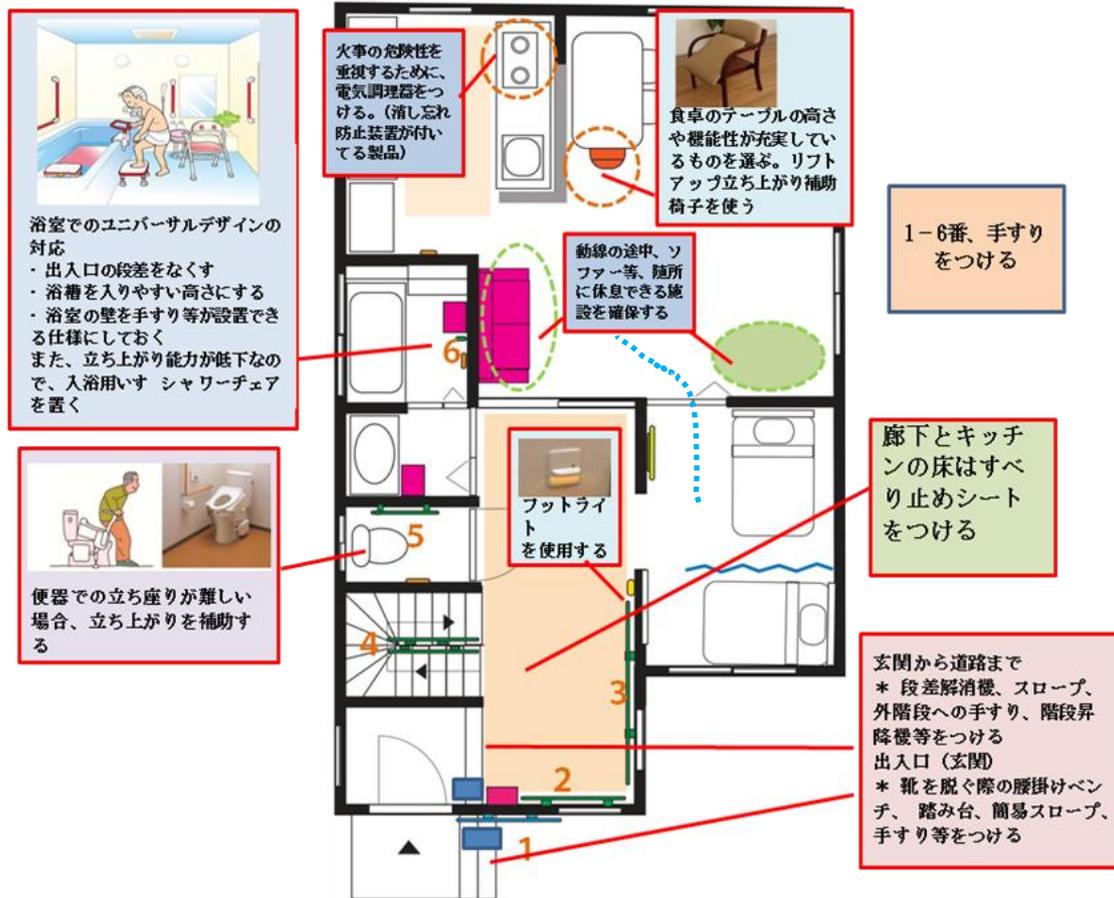


図3.改善イメージ

特に、高齢者の健康状態の変化に対応し、在宅サービスを受けやすい工夫が必要である。従来のコーナーは居室になり、空間を大きくする。図4

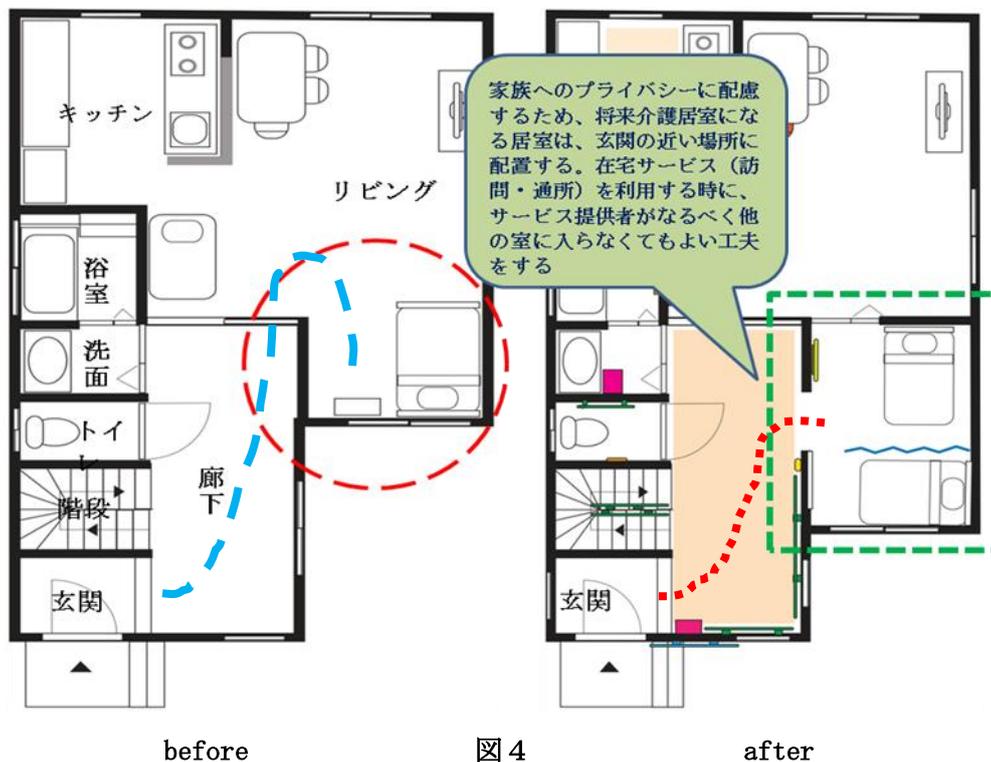


図4

Zさんの動線により、ベッドからトイレまで直接アクセスできる動線ではないので、歩行が困難になってもトイレに行けるようにするため、ベッドからトイレに直接アクセスできる動線を確保する。また、Zさんがリビングでよく食事するので、直接アクセスできる動線を確保することも重要だ。図5

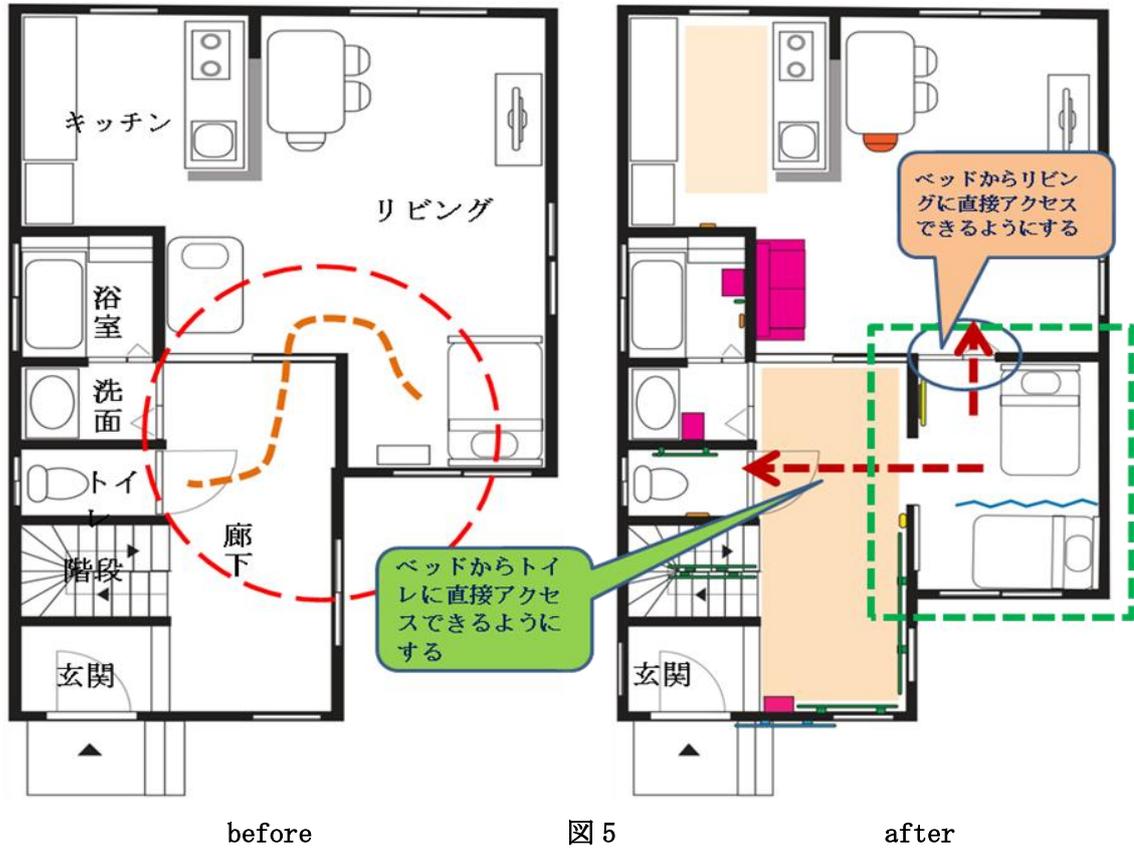


図6

そうして、夜間の訪問サービスが入ることを想定し、見守る家族の睡眠を妨げない工夫、プライバシーへの配慮をするために、アコーデオンカーテン等で居室と同室就寝者の寝室を空間的に隔てる。図6

地域コミュニティの形成

言語や文化・習慣の違いから外国籍住民が地域社会で孤立するケースが多くある。外国籍住民が地域社会へ参加・参画する仕掛けが必要であり、行政、市民、NPO/NGO、地域団体、企業等様々な主体が協働することで、地域コミュニティの形成を図ることが重要である。

また、加齢に伴い、日本語を忘れて、母国語が多くなってくると、サービス提供者に認知症と誤解された事例もあるため、多文化・多言語を支援することも必要だと思う。

今後は地域のケアシステムにおいて、健康問題や介護問題で支援を必要としている外国籍高齢者を対応するシステム作りが必要となる。そのためには、地域の日本人住民と親密な交流関係は築かれていない場合は、支援組織と日本人の老人グループとの交流、活動を広げて相互理解を深めていくことが前提となるだろう。図7

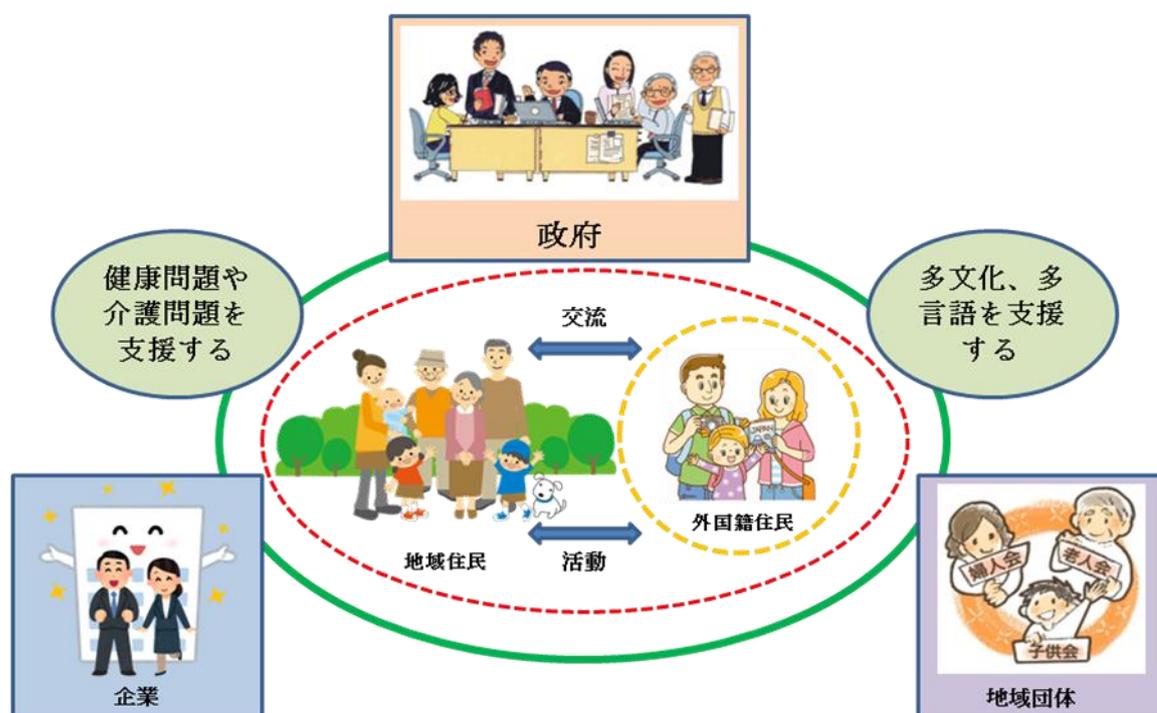


図7. 多文化共生の地域コミュニティイメージ

以上のように、外国籍高齢者は住み慣れた住環境を整備するため、多文化共生の地域づくりには、外国籍住民を受け入れる地域社会及び外国籍住民が相互に努力する必要があると思う。

参考文献

1. 在宅サービスについて (H26.4.28) 厚生労働省
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000044901.pdf
2. 在宅サービスに対応した住宅を考えるヒント (案) 2014.06.国土交通省 住宅局 安心居住推進課
<http://www.mlit.go.jp/common/000209752.pdf>
3. 医療、保健、福祉、住宅、雇用の分野における『大阪市外国籍住民施策基本指針』にかかる事業
<http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/cmsfiles/contents/0000223/223034/18.pdf>
4. 大阪府高齢者・障がい者住宅計画
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/15475/00000000/keikaku.pdf>
5. 『大阪市外国籍住民施策基本指針』の 実現に向けた取り組みについて (提言)
[http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/cmsfiles/contents/0000021/21716/teigen\(honbun\).pdf](http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/cmsfiles/contents/0000021/21716/teigen(honbun).pdf)
6. 超高齢社会の居住デザイン
大阪市立大学院生活科学研究科・大和ハウス工業総合技術研究科 編著
7. ユニバーサルデザインの考え方
田中直人 川崎和男 エドワード・スタインフェルト 外山義 梶本久夫 編
8. 超高齢福祉社会の福祉工学——福祉機器と適正環境
徳田哲男・児玉桂子 編